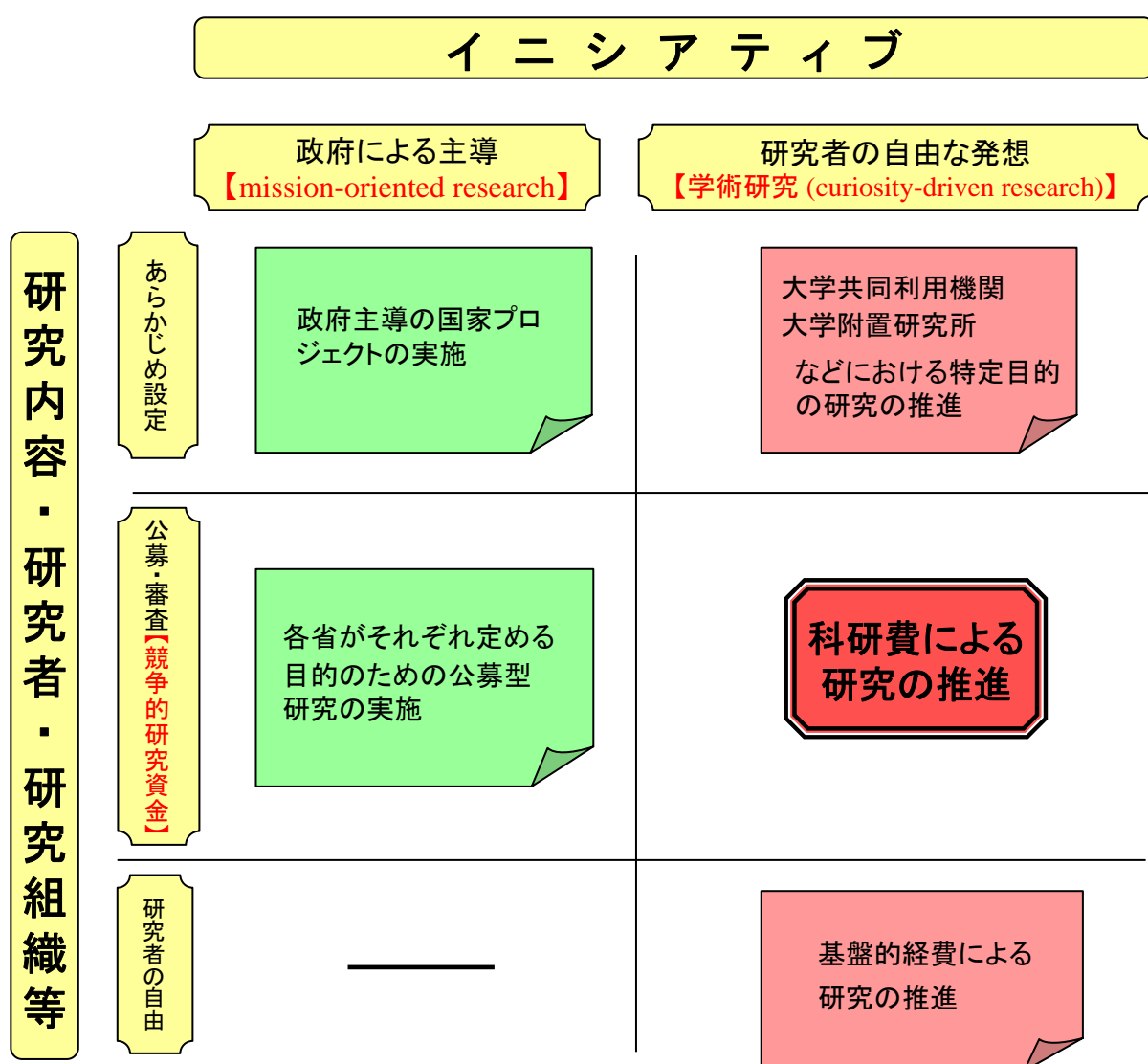


科学研究費補助金の位置付け

「科学研究費補助金」(科研費)は、人文・社会科学から自然科学まで全ての分野にわたり、基礎から応用までのあらゆる「学術研究」(研究者の自由な発想に基づく研究)を格段に発展させることを目的とする「競争的研究資金」であり、ピア・レビューによる審査を経て、独創的・先駆的な研究に対する助成を行うものです。

＜政府による研究推進の分類と「科研費」の位置付け＞



※ 科研費(1,895億円)は、政府全体の科学技術関係経費(約3.6兆円)の約5%、政府全体の競争的研究資金(約4,700億円)の約40%を占めています

社会への貢献の例

(30年後の重点分野を育ててきた科研費)

科研費による研究の多くは、短期的な目標達成よりも、むしろ長期的視野に立ったものであり、社会にブレークスルーをもたらす画期的な研究成果を多く生み出しています。ノーベル賞を受賞した研究成果の多くも、30年以上前の萌芽期から科研費によるサポートを受けています。

研究課題

「半導体多層薄膜構造による光集積回路用レーザの研究」

末松安晴

(国立情報学研究所顧問)

(昭和41年度～ 一般研究, 基盤研究 他)

「ポリアセチレンフィルムの半導体としての応用に関する研究」

白川英樹

(筑波大学名誉教授)

(昭和44年度～ 試験研究, 基盤研究 他)

「遷移金属錯体を用いる新規合成反応」

野依良治

(名古屋大学名誉教授)

(昭和47年度～ 一般研究, 特別推進研究 他)

「食品機能の系統的解析と展開」

藤巻正生

(東京大学・お茶の水女子大学名誉教授)

(昭和59年度～ 特定研究)

「磁気薄膜による高密度情報記録の研究」

岩崎俊一

(東北大学名誉教授)

(昭和42年度～ 機関研究, 一般研究 他)

研究成果

光通信の実現

超高速のブロードバンド時代の
実現

電気を通すプラスチックの実用化

携帯電話の電池など様々な電子
部品などに利用

〔 ノーベル化学賞(平成12年度) 〕

化学物質の画期的な合成法を実現

・副作用のない薬品の製造などに広く応用
・世界のメントールの約3分の1を生産

〔 ノーベル化学賞(平成13年度) 〕

機能性食品(※)という 新しい分野の創出

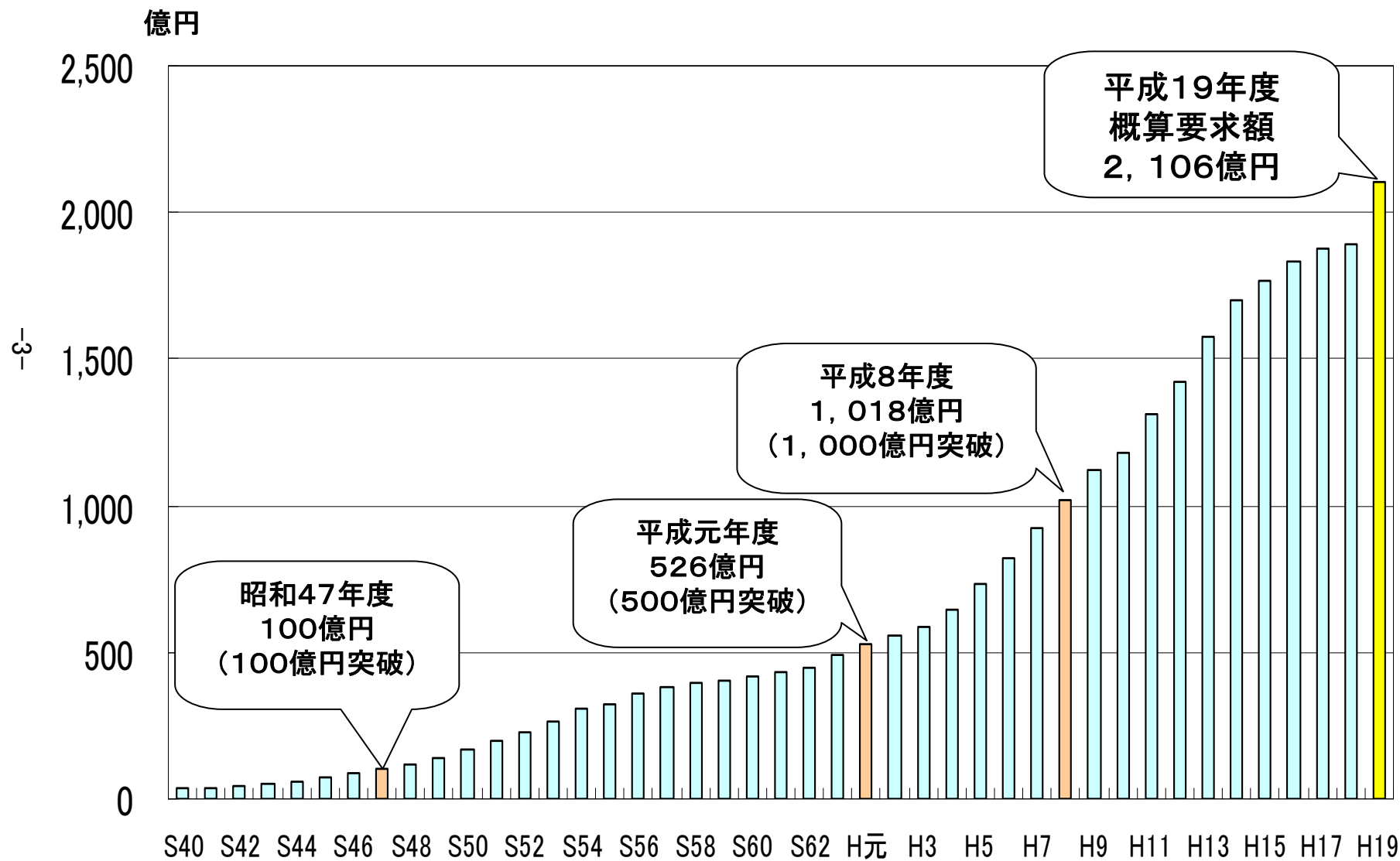
※成人病や老人病などの病態に対応
した機能を有する食品

(例: β -カロチン、リノール酸)

垂直磁気記録の実現

・垂直磁気記録方式HDDの実用化

科学 研究 費 補 助 金 の 拡 充



科学研究費補助金の拡充と改革

研究者の自由な発想に基づく学術研究を幅広く推進

平成19年度概算要求額
2,106億円(1,895億円)

